

研究種目：科学研究費補助金基盤研究 S

研究期間：2007～2011

課題番号：19102002

研究課題名（和文）

戦（いくさ）に関わる文字文化と文物の総合的研究

研究課題名（英文）

Study of Literature and Culture Related With War Affairs

研究代表者

遠山 一郎 (TOYAMA ICHIRO)

愛知県立大学・日本文化学部・教授

研究者番号：80132174

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：日本文学・国文学・国語学・日本史・言語表現・戦争・文化

1. 研究計画の概要

日本には古代から近代まで対外接触が常に見出される。それらの接触には心理的・物理的な摩擦が伴っていた。各時代の摩擦に共通する要素の一つが戦である。その全体像を捉えるために、研究対象の領域・時代を異にする研究者が本研究を構成することによって、戦に関わる人の営みの総合的な研究を進めようとする。

2. 研究の進捗状況

佐々木雄太（愛知県立大学学長）の2つの講演がこの研究の主題にヨーロッパへの広がりを持たせ、丸山裕美子の諸論文が東アジアへの広がりをこの研究企画に取り入れ、佐々木の講演とあいまち、東アジアからヨーロッパに広がる研究対象の視野を定めた。

公開研究集会の成果に論文を加えて、論文集『いくさの歴史と文字文化』を出版した。

久富木原玲が菓子の変と平安文学との関わりに解明を加え、松尾葦江の講演が諸本の語り方の相違の問題、服部幸造の講演が平家物語で実際のいくさが物語に作られてゆくさまに迫った。

源平のいくさが後の芸能などにも大きな影響を及ぼしたことを、国際シンポジウムで究明し、絵解き、平曲盲人伝承、日本舞踊の実演によって平家物語に関わった芸能を視覚的に示し、それをDVDに記録した。それを受けつつ、講演と討論会で、いくさの語り方をヨーロッパ・日本の視点から解明した。これに諸論文を加えて、論文集『いくさを語る視点—諧謔の文学をめぐる—』を編集した（2010年度早々出版予定）。

平家物語の研究で平曲譜本シンポジウムを行い、これに並行して『「平家正節」盲人伝承八句—ライブ映像と検索—』を編集し、盲人伝

承による平曲の語りと『平家正節』との同時視覚化をDVD化し検索機能を付け、平家物語に関わる論文をあわせて出版した。

歴史地理の分野で、日本の戦国・織豊期を通じて、城下町や港町の景観が大きく変化する過程を考察した。同じく戦乱後に景観形成の進んだ中世イングランドを始めとする西欧の中世都市と比較し、日本の戦と都市との関わりを考察した。

近代の文学研究で山口俊雄、宮崎真素美が過去のいくさへの注視と同時代批判への関わり、1930から40年代戦時下における詩人たちの文学活動を研究。これに戦争体験者の記憶のありかたを探って聞き取りを行い、論文および当科研のWEBSITEに公開した。

3. 現在までの達成度

②ほぼ計画にそって研究を進めつつある。2に記したように、これまでの研究によって、古代から近代に及ぶ時代的広がりの中で、いくさをめぐる歴史・書記・文学・芸能の諸分野の研究を総合的に進めている。

4. 今後の研究の推進方策

- ・『いくさを語る視点—諧謔の文学をめぐる—』の出版。
- ・講演とパネルディスカッション「日本近代文学と戦争—「十五年戦争」期の文学を通じて」講演者：ノーマ・フィールド（シカゴ大学）、坪井秀人（名古屋大学）、米谷匡史（東京外国語大学）、宮崎真素美（愛知県立大学）、山口俊雄（愛知県立大学）を催す。
- ・この成果の論文化とその出版。
- ・徳川美術館および蓬左文庫との連携による文物資料展示・講演会。
- ・いくさの影響による古代語から近代語への

日本語史研究。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計26件。抜粋)

- ・丸山裕美子「北宋天聖令による唐日医疾令の復原試案」『愛知県立大学日本文化学部紀要』1、21-40頁 2010年3月、査読無
 - ・中根千絵「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻五の本文の位置づけ」(『愛知県立大学文学部論集』58号 39-71頁) 2010年3月、査読無
 - ・宮崎真素美「〈ふりむかぬ〉者と〈ふりかえる〉者—「海ゆかば」、防人歌から「橋上の人」へ—」『説林』、第58号、41-59頁、2010年3月、査読無、
 - ・Yamamura, Aki, 'Medieval Towns' in Kinda, Akihiro (eds.), A Landscape History of Japan, Kyoto University Press, 2010, 2, pp. 65-88. 査読無
 - ・遠山一郎「額田王と天智天皇との万葉歌」『説林』(愛知県立大学国文学会編) 57号、1-14頁、2009年3月、査読無
 - ・山口俊雄「石川淳「鸚鵡石」論—典拠『武辺雑談』との比較」『国語と国文学』、第85巻第4号、35-49頁、2008年4月、査読有
 - ・宮崎真素美「戦時下のロマンティズム—詩誌「故園」をめぐる世界—」『日本現代詩歌研究』、第8号、45-60頁、2008年3月(依頼論文)
 - ・久富木原玲「菓子の変と平安文学—歴史意識をめぐる—」『愛知県立大学文学部論集』56号、17-48頁、2008年3月、査読無
 - ・福沢将樹「玉上〈三人の作者〉説の語用論的意義」『愛知県立大学文学部論集(国文学科編)』、第56号、1-15頁、2008年3月、査読無
 - ・山村亜希「戦国期山口の景観とその変化—街路・地割の形態分析を通じて—」『愛知県立大学文学部論集』56(日本文化学科編第10号)、55-85頁、2008年3月、査読無
 - ・丸山裕美子「日唐令復原—比較研究の新地平」『歴史科学』191、1-11頁、2008年3月、査読有
 - ・宮崎真素美「八王子の「蝶」—戦時下の若き詩人たち—」『国語と国文学』第85巻第1号、58-72頁、2007年12月、(依頼論文)
 - ・福沢将樹「語りの類型に関する諸説をめぐる(その一)」『国語国文研究』、132号、1-13頁、2007年5月、査読有
- [学会発表] (計7件。抜粋)
- ・丸山裕美子「唐日医疾令的復原と対比—対天聖令出現之再思考—」2009年11月7日、「新史料・新観念・新視角—天聖令国際学術研究会」於台湾・国立台湾師範大学
 - ・Aki, Yamamura, 'The Re-making of urban landscape in Early-Modern Japan', The 14th

International Conference of Historical Geographers, Kyoto University (Japan), 2009 (国際会議) 26, Aug, 2009

- ・Aki, Yamamura, 'The Landscape of Local political cities in Medieval Japan', International Medieval Congress 2007, University of Leeds (UK), 9, July, 2007 (国際会議)
 - ・山村亜希「日本中近世における地方城下町の景観」東アジア(韓国・日本)伝統都市景観 国際学術大会、慶尚大学校(韓国・晋州)、2007年12月20日(国際会議)
 - ・山村亜希「中近世移行期における都市景観と自然地形」第14回中世都市研究会(東京大学)、2007年9月1日(学会発表)
- [図書] (計13件。抜粋)
- ・山村亜希「原城城下における港と町の景観—大江を中心として—」(千田嘉博・矢田俊文編『都市と城館の中世—学融合研究の試み—』高志書院、2010、405頁、該当頁未定)
 - ・山口俊雄「石川淳作品史・試論—一九四五～五五年—〈焼跡〉から〈革命〉へ」『石川淳と戦後日本』鈴木貞美編、国際日本文化研究センター、51-79頁、2010年、査読有
 - ・『いくさの歴史と文字文化』遠山一郎・丸山裕美子編、三弥井書店、2010年3月、260頁
共著者：笹山晴生、孟彦弘、李相勲、倉本一宏、丸山裕美子、犬飼隆、鈴木喬、方国花、遠山一郎、身崎壽
 - ・山口俊雄「疎開・戦後—移動が太幸に見えたもの」『展望 太幸治』(安藤宏編、ぎょうせい)刊本、99-115頁、2009年6月、査読有
 - ・宮崎真素美「三好豊一郎—肉体に刻んだ荒地—」和田博文編『戦後詩のポエティクス』、世界思想社、244-259頁、2009年4月(依頼論文)
 - ・『「平家正節」盲人伝承八句—ライブ映像と検索—』双光エシックス、70頁、2009年3月
共著者：尾崎正忠、鈴木孝庸、薦田治子、山下宏明、林和利、大森北義、犬飼隆、遠山一郎
 - ・丸山裕美子「律令国家と仮寧制度—令と礼の継受をめぐる—」大津透編『史学会シンポジウム叢書 日唐律令比較研究の新段階』山川出版社、142-165頁、2008年11月
 - ・山村亜希『中世都市の空間構造』吉川弘文館、2009年2月 322頁(著書)
 - ・中根千絵「『今昔物語集』巻十六第三二話小考—槌を持つ鬼と牛飼い童—」『神話・象徴・文化』Ⅲ、267-286頁 楽瑯書院 2007年5月
- [産業財産権]
- 出願状況 (計0件)
 - 取得状況 (計0件)
 - [その他] なし